保存版

Arai HELMET

Racing Specialities

# PB-SNC2 RX-7X

# 取扱説明書 Version 2.0

## ご使用前に必ず本書をお読みください

本書はヘルメットの使用方法、お手入れ方法、使用上の注意を説明しています。正しくご使用していただくため、最後までよくお読みください。また、本書はいつでも読み返せるよう、大切に保管してください。万一、本書を紛失された場合は、弊社『品質管理課』までお問い合わせください。製品の改良などにより、お客様に予告なく仕様の変更を行う場合がありますのでご了承ください。

100% MAX VISION　PINLOCK FOG FREE SYSTEMS　EMERGENCY TAB　Shield System VAS

### 本書の各図記号は以下のような意味を表しています

**危険 注意** 左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が高いと思われる事項であることを示しています。

左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、ヘルメットを破損させ、安全装備としての機能を低下させる可能性が高いと思われる事項であることを示しています。

**本製品は日本国内仕様です。国外では使用しないでください。尚、他国には各々の国で必要となる法律、規格等が定められており、日本国内仕様である本製品は適合していません。**

# 安全のため、守っていただきたいこと。

**このたびアライヘルメットをお求めくださいましたことを、心より感謝いたします。私共は日本で最も長い歴史を誇るヘルメットメーカーとしてその歴史に恥じぬヘルメットを作り、より多くの方々の安全を守る為に努力しております。しかし、私共が努力して作った製品といえども、いかなる事故にも絶対という訳ではありません。ヘルメットは万一の際に危険の度合を減らす装備の一つであり、安全の一要素にすぎません。ヘルメットの着用に際しては以下の注意事項をよくご理解いただき、常に安全を心がけて運転されますよう、お願いいたします。**

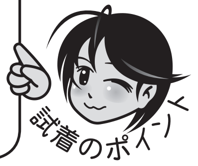
## ▼ヘルメットを購入する際は、必ず試着を行ってください。

安全のためには、「自分の頭にピッタリ合ったサイズのヘルメットをかぶる」ということがとても大切です。緩すぎたりキツすぎたりしてヘルメットのサイズが自分の頭に合ってないと、ヘルメットは安全性能を十分に発揮することができません。下記の「試着のポイント」を参考にヘルメットをお選びください。

●ヘルメットを購入する際は、必ず試着を行ってください。ヘルメットは同じサイズ表示であっても、オープンフェイスやフルフェイス等タイプが異なると、かぶった際のフィット感も異なります。

●ヘルメットをかぶった状態で頭を前後左右に振っても、頭の動きに対してヘルメットがワンテンポ遅れずにしっかりと追従すること。

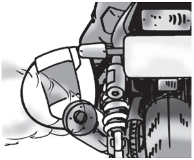
●ウレタン素材等の進歩によって、「少しきつめを選んでおけば、使っているうちに馴染んで緩くなる！」といった事は、最近ではあまり期待できません。サイズ選びの際にはヘルメットをかぶった際の内装のフィット感が全体的に均一であり、尚且つ頭部に部分的な締め付けや圧迫などを感じないサイズのヘルメットをお選びください。



### ▼あご紐は正しく締めてください。

転倒した際、頭に受ける衝撃の方向は予想することができません。ある時はヘルメットを脱がすような方向から衝撃が来るかもしれません。そんな時、ヘルメットを頭にしっかりと固定しておくのがあご紐の役目です。ヘルメットをかぶっていても、あご紐を正しく締めていなければヘルメットをかぶらない状態と同じです。ヘルメットをかぶる時には必ずあご紐を正しく締めてください。

### ▼ヘルメットの持ち運びには注意！



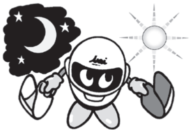
ヘルメットホルダーにヘルメットを吊り下げたまま走行すると、ヘルメットと車体との干渉により車体可動部の動きを妨げるおそれがあります。そして、ヘルメット本体や、車体とヘルメットを繋いでいるあご紐も傷つけるおそれがあります。また、ヘルメットを持ち運ぶためにヘルメットの窓に腕を通したり、あご紐で腕に吊り下げて運転するのもオートバイの操縦に支障をきたしますので絶対におやめください。

### ▼あご紐（ストラップ）のコンディションにご注意ください。

あご紐は安全の要です。短くて硬いアゴ髭と長時間接触したり、路面等の硬いものと擦れたり、ライディングジャケット等の襟部分の面ファスナーなどに触れると繊維が徐々に千切れてあご紐に毛羽立ちが生じます。あご紐に毛羽立ちやほつれを発見した場合は、あご紐の修理を弊社品質管理課までご依頼ください。※あご紐の修理代金とヘルメットの往復送料は、お客様のご負担となります。

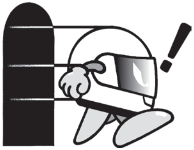
**危険** **あご紐が毛羽立ったままでヘルメットを使い続けると、ほつれが進行してあご紐が次第につれて（ひきつって）変形してしまいます。変形したあご紐では装着時の締め付けが不十分だったり、衝撃を受けた際にDリングから抜けるおそれがあり大変危険です。**

### ▼走行条件に合ったシールドをお選びください。※シールドを装備したヘルメットに限ります。



周りが暗くなってきたにも関わらずスモークシールドのままで走行すると、視界が悪化し状況判断し難くなり大変危険です。長距離ツーリングなどで夜間も走行する場合は、光線透過率が７０％以上のアライヘルメット純正クリアーシールドに交換してください。尚、外したシールドは傷を付けないようにご注意ください。

### ▼走行中の急激な環境変化に注意する。※シールドを装備したヘルメットに限ります。



走行時におけるヘルメット内の温度は、ほぼ一定ですが、ライダーは高速度で移動しているため周辺環境（気温、湿度）は常に変化しています。そのため、峠道などの高低差が生じる道路、または突然の雨やトンネルに入った（出た）瞬間、ヘルメット内部と周辺環境の急激な温度変化により、シールド面（外面か内面かは状況によって変わります）に結露（露付き現象）が発生し、急激に曇ってしまう場合があります。このような状況が予想される時にはシールドを微開にしておき、予めシールド内外の温度差を少なくしたり、安全を確保できる走行スピードに調節するなどの注意が必要です。

### ▼ヘルメットを塗装する際の注意。

ヘルメットを塗装する際は、以下の点にご注意ください。まず、ヘルメットの表面を食器洗い用中性洗剤で洗い、汚れや油分を落としてから８００番程度のサンドペーパーで表面を研磨します。尚、ヘルメット内の衝撃吸収ライナ（発泡スチロール製）は塗料に含まれる溶剤によって溶けてしまい衝撃吸収性が失われてしまいますので、塗料が染み込まないように入念にマスキングしてください。ヘリ部分、ホック類、ネジ孔なども同様にマスキングして、ご使用になる塗料の説明書にしたがって塗装を行ってください。但し、乾燥時に５０℃以上の熱を必要とする塗料はご使用できませんのでご注意ください。尚、ホルダーやダクト等の樹脂成型パーツの塗装は、必ずポリカーボネート樹脂用の塗料と溶剤をご使用ください。

### ▼ヘルメットの高温乾燥は厳禁！

ヘルメットを５０℃以上の熱に曝すと素材に変形や変質が生じ、ヘルメットの性能を大きく損ないます。ヘルメット全体、または取り外した内装を、業務用乾燥機・ドライヤー・ストーブ・各種ヒーター類・電子レンジ・オーブン・各種バーナー、トーチ類・直火などで絶対に乾かさないでください。また、衣類乾燥機、洗濯乾燥機による内装の乾燥も、その乾燥温度が５０℃以上に達する場合は使用をお止めください。

### ▼ヘルメットの改造は厳禁！

ヘルメットの基本構造は頭を何らかの物質と空間で覆い、頭を保護するものです。安全性を高める為には、より多くの物質、空間が必要となり、したがって安全性の代償として僅かとはいえ視界・聴力・運動性が損なわれる可能性があります。例えば、ヘルメットをかぶると音が聞こえにくく感じる例があげられます。これは高周波のカン高い音がクッション材などによって吸収されることによって音質が変化するためで、通常の会話などの周波数音はほとんど吸収されません。このことをご理解いただければ、ご支障なく運転ができます。また、帽体に聴音孔をあけると衝撃吸収性能が低下するだけでなく、かえって風切音が大きくなり聴力を妨げる原因となります。メーカーに相談せず帽体や発泡スチロールに孔をあけたり、削ったりするのはおやめください。

### ▼衝撃を受けたヘルメットは再使用できません！

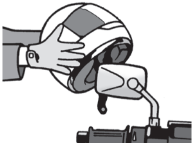
ヘルメットは衝撃を受けると、その一部が壊れることで衝撃を吸収して頭を守るように作られています。したがって、かぶった状態で衝撃を受けたヘルメットは、例え表面に大きなキズ等が見られなくても衝撃吸収のプロセスによって内部構造が破壊されています。一度でも大きな衝撃を受けたヘルメットは継続して使用せず、弊社品質管理課まで事故の状況説明と共にヘルメットをお送り頂き、再使用可能かどうか検査を依頼されるか、新しいヘルメットをご購入ください。

※ヘルメットの検査自体は無料です。ヘルメットの往復送料のみ、お客様のご負担となります。

### ▼走行時のヘルメット操作は危険！

オートバイで走行中、シャッターの開閉等の操作を行うにはハンドルから一時的に手を離さなければならず、その結果オートバイの運転に支障をきたすおそれがあります。ヘルメットの操作は停車時に行ってください。但し、シールドやサンバイザーの開閉は視界の確保などに必要なので、この限りではありません。

### ▼ヘルメットをミラーに引っ掛けないで！

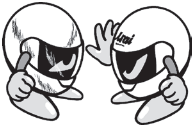


バックミラーにヘルメットをかけると、ミラーの角でシールドが傷付いたり、衝撃吸収ライナが変形するおそれがあり、変形したライナは衝撃吸収能力に少なからず影響を及ぼします。また、ヘルメットの上に腰掛けるのも厳禁です。ヘルメット裾部のエッジモールを傷付け、それをきっかけにエッジモールが剥がれたり、削れたりしてヘルメット裾部が露出するおそれがあります。帽体の裾部は硬いので、それを保護しているエッジモールが無いと転倒時に首や肩など身体を傷つけるおそれがあります。

### ▼長期間ご使用の場合は樹脂成型パーツの点検及び交換を行ってください。

ヘルメットに使用されている樹脂成型パーツ類は、日々の使用による可動部の磨耗や紫外線による素材劣化が生じます。不意の破損を防ぐために定期的な点検を行ってください。特にシールドベースやそれを取り付けるためのネジ、ホルダーやワッシャー類などはとても重要なパーツですので、亀裂や磨耗、破損を発見した場合は、パーツの交換を早急に行なってください。

### ▼ヘルメットの性能は永久不変ではありません。



ヘルメットは日々の着用に伴い、ヘルメットを構成する素材の老朽、劣化などの経時変化によって、新品時と同じ性能を維持できなくなる場合があります。現在ご使用中のヘルメットに特に不具合が見られなくても、ＳＧマーク※の有効期限である三年を目安に、そのヘルメットの着用を開始した日から数えて三年以上経過したヘルメットは買い替えをお勧めします。※（一財）製品安全協会のＳＧ被害者救済制度

## ▼ヘルメットを不安定な場所に置かないで！

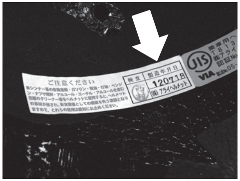
オートバイのタンクやシート上など平面でない滑りやすい場所にヘルメットを置くと、ヘルメットが落下するおそれがあります。ヘルメットは中身が空っぽの状態で1m以下からの落下であれば、性能に大きくは影響しませんが※、落下時にヘルメットの部品が破損した場合、そのまま使用すると走行中に部品が外れたりするおそれがあります。部品が破損した時には、速やかに新しい部品と交換してください。

※例え1m以下からの落下であっても、同一箇所に複数回衝撃が加わった場合はヘルメットの性能が損なわれます。

## ▼ペットの近くにヘルメットを置かないで！

ペットの活動範囲にヘルメットを置かないようにご注意ください。ペットがヘルメットをおもちゃにして、噛んだり、転がしたり、引きずり回したりする場合があります。また、齧歯類（げっしるい）の場合には内装生地やウレタン製のクッション材を巣作り（寝床）の材料にするために齧り取ったりしてヘルメットを破損させるおそれがあります。また、ヘルメットから外れた部品などをペットが誤飲するおそれもありますので十分ご注意ください。

## ▼ヘルメットの製造年月日について




ヘルメット内面に貼られる検査ラベルに最終検査を行った日付が、そのヘルメットの製造年月日としてスタンプされています。尚、ヘルメットに付属の印刷物（シールドラベルや取扱説明書など）に表示される数列等は印刷物の管理コードであり、ヘルメットの製造年月日とは関係ありません。

## ▼ベンチレーションダクトについて

●ベンチレーションダクトは、強力な両面テープやネジでヘルメットに固定されています。無理に取り外そうとするとヘルメット本体やベンチレーションダクトが破損するおそれがあります。

●トップケース等ケース類にヘルメットを収納する際は、ケース内部（特に天井部）とヘルメットとの間に隙間があるかどうか確認を行ってください。この隙間が十分確保されていない場合、ケースの蓋をつよく閉じた際、ヘルメットに打撃が加わりベンチレーションダクトを破損させるおそれがあります。また、ヘルメットを取り出すきっかけとしてダクトの開口部などに指をかけないでください。

●暑い日に、ケース類にヘルメットを長時間収納すると、内部温度の上昇によってベンチレーションダクトを固定する両面テープの接着力が低下して、ズレや剥がれが生じるおそれがあります。また、ヘルメットの収納部がマフラーに近い場合も内部温度の上昇によって同様のトラブルが生じるおそれがあります。

## ▼ツヤ消し塗装のヘルメットについて

●ツヤ消し塗装のヘルメットのお手入れに、アルコール・ガソリン・ベンジン・灯油・シンナー系の溶剤等は絶対に使用しないでください。付着した汚れは水やぬるま湯を少量含ませた軟らかい布で拭き取ってください。この時に表面を強くこすると部分的なツヤが生じてしまいますのでご注意ください。もし汚れが落ちない場合は、中性タイプの台所用洗剤を水で薄めてご使用ください。

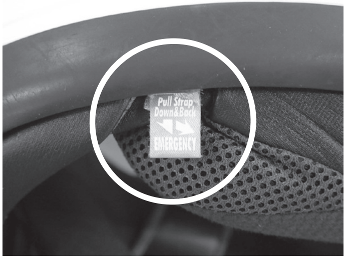
●ツヤ消し塗装表面を消しゴムで強くこすると、塗装面に部分的なツヤが生じますので使用しないでください。また、コンパウンド（研磨剤）や、コンパウンドを含むワックス等でヘルメット表面を磨くと、塗装面に部分的なツヤが生じますので使用しないでください。

●ツヤ消し塗装の性質上、各種塗料・インク・ボールペン・油性 / 水性マーカーなどが付着した場合、きれいに落とす事ができません。付着させないように十分ご注意ください。

## ▼エマージェンシータブについて

エマージェンシータブとは、救護者が傷病者のヘルメットを脱帽させる前段階として、脱帽時の抵抗となる頬パッドの除去をスムーズに行うことを目的としたシステムです。救護者は、頬パッドのカバー等に縫い付けられた目印（ＥＴポイントラベル）で傷病者の着用するヘルメットがエマージェンシータブに対応している事を認識できます。

> **注意**
>
> **エマージェンシータブによる頬パッドの除去は、当システムを十分に理解した上で、ヘルメット脱帽の訓練を経験した救護者によって行ってください。尚、事故状況や傷病者の状態によっては、エマージェンシータブが頬パッドの取り外しを確実に行なう有効な手段とならない場合があります。**




ＲＸ−７ＸのＥＴポイントラベル

# ＲＸ−７Ｘの特長

## Peripherally Belted - SNC$^2$

ＰＢ - ＳＮＣの成形用樹脂を大幅に見なおしたＰＢ - ＳＮＣ$^2$。その前頭部は、窓カットと並列に配されたスーパーファイバーベルトによって強化され、サイドからリヤにかけてスーパーファイバークロスで補強を行い、帽体全体での剛性を高めています。

## マウスシャッター

フリーフローシステムモードとデフロストモードの二つの機能を併せ持つマウスシャッターを採用。

## ブローベンチレーション

ブローベンチレーションダクトから取り入れられた外気は、インナーサイドダクトによってこめかみ部分へと導かれる。

## ＩCダクト5

スイッチの大型化によって操作性を向上。外気をヘルメット内部へと導く。

## ディフューザー・タイプ１２

レースからのフィードバックによる、全長が長くなったディフューザー・タイプ１２を採用。そして、スイッチの大型化によって操作性も向上。

## エアチャンネル

ヘルメットの内壁にそって空気の通り道をつくり、シールド内に停滞する空気をサイドダクトから排出。

## エアロフラップ

高速走行時のヘルメット下部を流れる空気を整えて、ヘルメットを安定させる。

## デミストロックレバー

フォーミュラカー用ヘルメット【ＧＰ - ６】で採用された、レバーによる強固なシールドロックシステムをベースとしたデミストロックレバーは、衝撃によるシールドの不意の開放を防ぎます。

## ＥＰフルシステム内装

海外市場で高い評価を受けているアライの固定内装の優れたかぶり心地を着脱式内装でも再現すべく開発されたフルシステム内装は、長時間の走行でも違和感のない心地良いフィッティングを実現。

## ＦＣＳ構造システムパッド

ＦＣＳを取り入れたシステムパッドは、ウレタンパッドを支える【バックプレート】の持つスプリング効果によってアゴ下まで包み込むことで深いかぶり心地を与えます。また、このプレートの変形作用によってヘルメットの着脱もスムーズに行うことができます。

## ＥＳチンカバー

あごの下を着脱可能なチンカバーで覆って気流を整え、走行時におけるヘルメット内の静粛性を高めます。また、チンカバー内蔵のフレームによって排気ポートが形成され、口元にこもる空気が排出されて息苦しさを解消します。

Image

①デミストロックレバー
②ブローベンチレーション
③ＩＣダクト5
④ディフューザー・タイプ１２
⑤サイドダクト
⑥マウスシャッター
⑦エアチャンネル
⑧ＥＳチンカバー

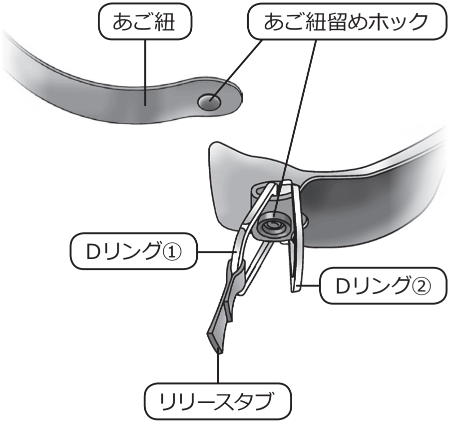
⑨ＥＰシステムパッド
⑩ＥＰシステム内装
⑪ＥＰストラップカバー
⑫ＥＰシステムネック


| | | |
|---|---|---|
| A | あご紐の正しい締め方 | 12 ～ 13 ページ |
| B | デミストポジションについて | 14 ページ |
| C | シールドの開閉 | 15 ページ |
| D | シールドの着脱 | 18 ～ 21 ページ |
| E | シールドベースの着脱 | 22 ページ |
| F | ＩＣダクト5の操作 | 24 ページ |
| G | ＤＦＩインテークの操作 | 24 ページ |
| H | ディフューザーの操作 | 25 ページ |
| I | ブローシャッターの操作 | 26 ページ |
| J | マウスシャッターの操作 | 26 ページ |
| K | ディフレクターの着脱 | 27 ページ |
| L | エアロフラップの操作 | 27 ページ |
| M | エアロフィンの操作 | 28 ～ 29 ページ |
| N | システムパッドの着脱 | 30 ～ 31 ページ |
| O | パッドカバーの着脱 | 22 ～ 33 ページ |
| P | ヘルメットサイズの調節 | 35 ページ |
| Q | システム内装の着脱 | 36 ページ |
| R | システムネックの着脱 | 38 ～ 39 ページ |
| S | ストラップカバーの着脱 | 40 ～ 41 ページ |
| T | ＥＳチンカバーについて | 42 ～ 45 ページ |
| U | ヘルメットのお手入れ | 46 ～ 47 ページ |
| V | オプションパーツリスト | 48 ～ 49 ページ |
| ピンロックシートについて※ | | 50 ～ 54 ページ |
| 巻末付録 | | 55 ページ |


※ピンロックシートは付属していませんので、別途お買い求めください。

# A あご紐の正しい締め方

**あご紐を正しく締めていない場合、万一の際にヘルメットの安全装備としての機能が十分に発揮できません。当ページを良くお読みになり、あご紐を正しくご理解いただきますよう、お願いいたします。**




あご紐の各部名称

### 1. 二つのDリングに通す

あご紐を、Dリング①→Dリング②の順に通します。

※あご紐を通す際には、途中でねじれさせないようにご注意ください。

### 2. あご紐を180°折り返す

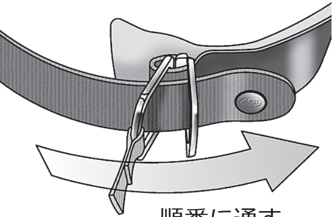
二つのDリングにあご紐を通したら、あご紐の先端を軽く引っぱってゆるみを取り除きながら180°折り返します。

### 3. Dリング①に再び通す

折り返したあご紐の先端を、Dリング①に通します。

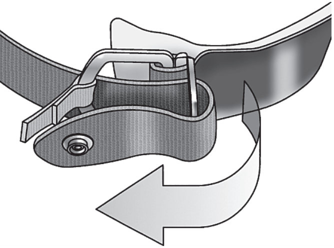
> **危険**
>
> **あご紐を正しく締めていない場合、転倒時の衝撃でヘルメットが脱落し、死亡または重傷を負う危険性があります。**

1.



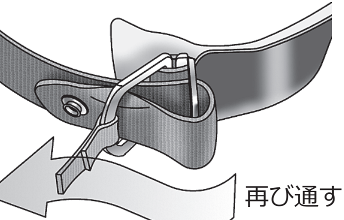
順番に通す

2.



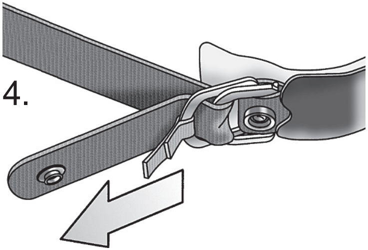
180°折り返す

3.



再び通す

4.



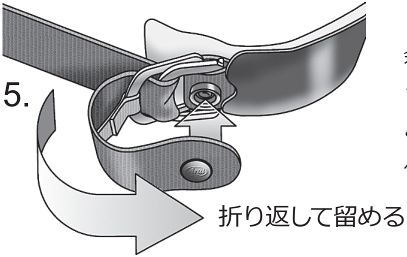
## 4. あご紐を引っぱる

あご紐の先端部を持って矢印の方向に引っぱると、あご紐が締まります。

あご下とあご紐の間に指を1～2本差し入れて襟元を直すように左右に動かしても、指の背が常にあごに触れる位が適切な締め具合です。

※人差し指と中指の一番太いところが直径２ｃｍ未満の方は指二本で、それ以上の方は、人差し指一本で確認しましょう。

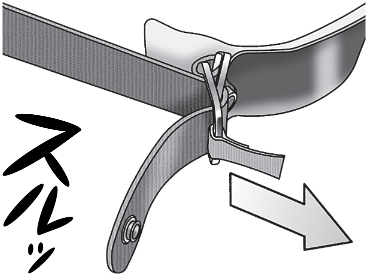
5.




## 5. 余った先端部を留める

余ったあご紐の先端を【あご紐留めホック】で留めることで、あご紐の風によるバタ付きや、襟元の面ファスナーへの付着を防止できます。

あご紐が乗車服やレインウェアなどの襟元の面ファスナーに付着すると後方確認の際に首の動きを妨げるおそれがあります。また、あご紐が面ファスナーへ付着すると毛羽立ちの原因になります。




## リリースタブの使い方

【あご紐留めホック】を外し、リリースタブを摘んで矢印の方向に引っぱると、あご紐を簡単に緩めることができます。

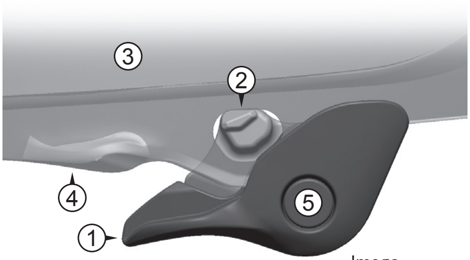
**あご紐を【あご紐留めホック】で留めただけの状態であご紐を持たないでください。【あご紐留めホック】が外れてヘルメットが落下して破損させるおそれがあります。**

## シールドロックについて

ＶＡＳ－Ｖシールドは、フォーミュラカー用ヘルメットのＧＰ－６で採用されたレバーによる強固なシールドロックシステムをベースとした【デミストロックレバー】によってロックされ、衝撃によるシールドの不意の開放を防ぎます。

## 各部名称

①デミストロックレバー
②デミストロックベース
③ＶＡＳ－Ｖシールド
④ＶＡＳ－Ｖシールド側の指かけ
⑤バネ入り可動軸



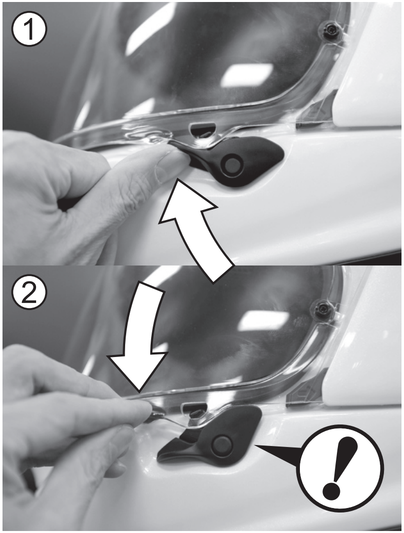

Image

# B デミストポジションについて

### ①デミストポジションにする場合

デミストロックレバーの前方を、親指の腹で押し上げます。すると、レバーに押されたシールドは【デミストポジション】に移動します。

デミストポジションでは、シールドがわずかに開くことで、流入する外気によってシールドの曇りが軽減されます。




### ②デミストポジションの解除

デミストを解除してシールドを閉じる際は、【ＶＡＳ－Ｖシールド側の指かけ】の上に指をかけてシールドを閉じます。カチッ！と止まる位置（ロック完了位置）まで確実にシールドを引き下げてください。

シールドを閉じる際には、デミストロックレバーに触れる必要はありません。

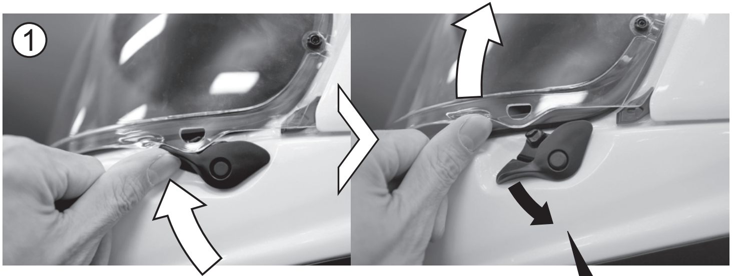
## C シールドの開閉

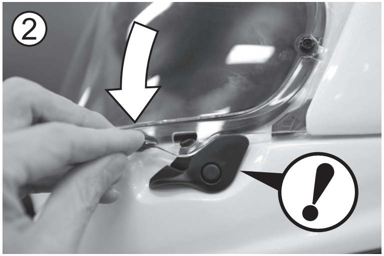
### ①シールドの開き方

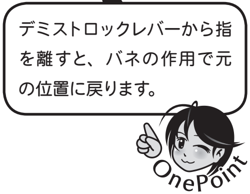
デミストロックレバーの前方を、親指の腹で押し上げます。すると、レバーに押されたシールドは【デミストポジション】に移動します。次に、指を【ＶＡＳ－Ｖシールド側の指かけ】の下に移してデミストポジションからさらに押し上げてシールドを開きます。

### ②シールドの閉じ方

【ＶＡＳ－Ｖシールド側の指かけ】の上に指をかけてシールドを閉じます。カチッ！と止まる位置（ロック完了位置）まで確実にシールドを引き下げてください。

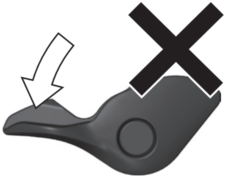


**シールドロックが不完全な状態で走行すると、風などの外圧によってシールドが不意に開いてしまい危険です。**

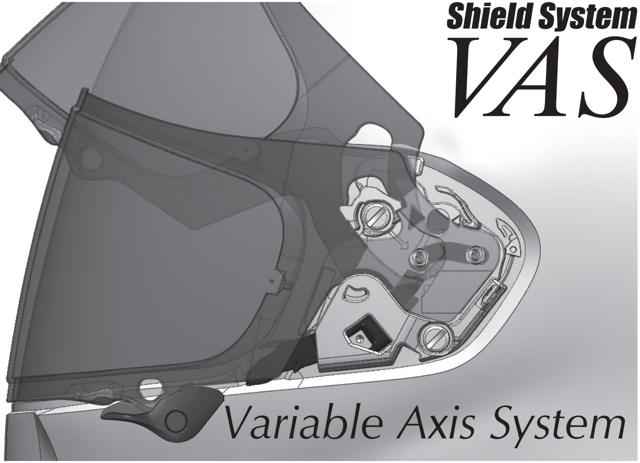
**デミストロックレバーの操作によるロックの解除を行わずにシールドを無理に開くと、デミストロックレバーやデミストロックベースが破損します。尚、デミストロックレバーは絶対に下向きに押さないでください。デミストロックレバーの機能を損なうおそれがあります。**



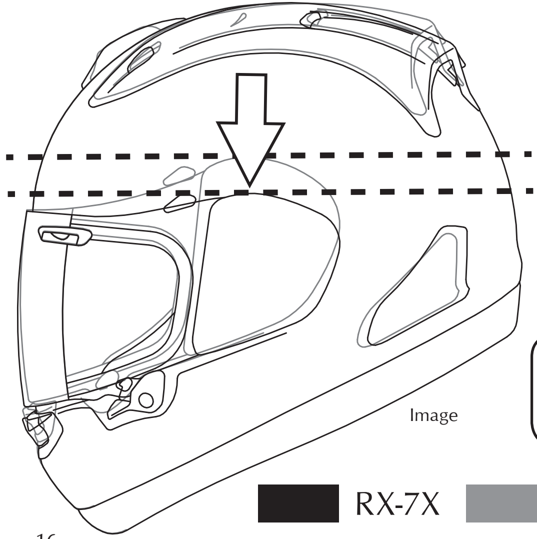
下向きに押さないで！

# VAS−Vシールドの仕組み

VAS−Vシールドは、シールドの回転軸を可変させることで固定された回転軸とは異なる、ホルダー範囲を飛び越す仮想軸を創り出し、ホルダー及びシールドベースのコンパクト化を実現しました。




Image



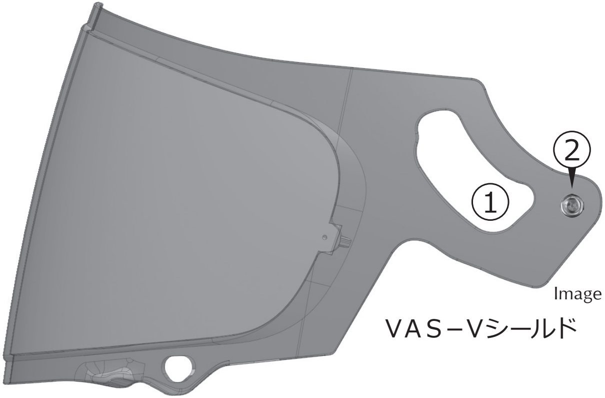
Image

RX-7X　RX-7 RR5

衝撃をかわすために大切な、丸くてなめらかな曲率ゾーンを拡大することで、Ａｒａｉが提唱する安全性のこだわりをカタチにしました。それが「ＶＡＳ」です。

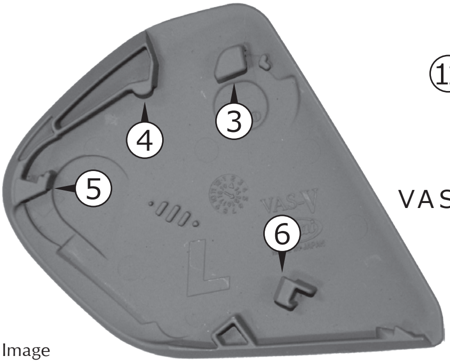
# VAS−V構成パーツの各部名称

| | | |
|---|---|---|
| VAS−Vシールド | 1 | 摺動穴 |
| | 2 | 金属製のピン |
| VAS−Vホルダー | 3 | 上部フック（前） |
| | 4 | 上部フック（後） |
| | 5 | ストリング用マウント |
| | 6 | 下部フック |
| VAS−V シールドベース | 7 | VAS−Vスイッチ |
| | 8 | 上部フック受け（前） |
| | 9 | 上部フック受け（後） |
| | 10 | ストリング用マウント |
| VAS−Vストリング | 11 | アンカー |
| | 12 | 返し |
| | 13 | フック |

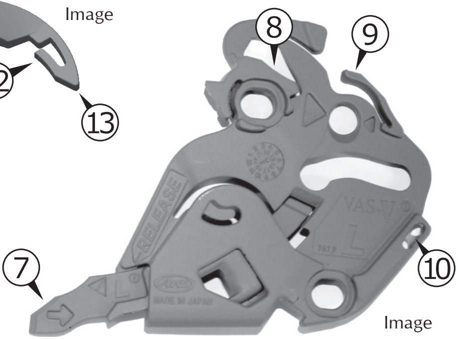


VAS−Vシールド

VAS−Vストリング



VAS−Vホルダー



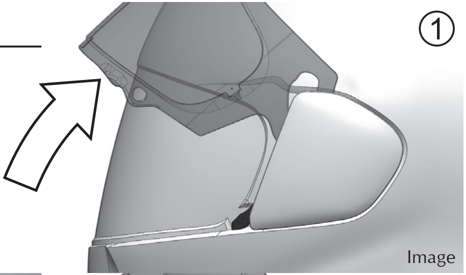
VAS−Vシールドベース

# D シールドの着脱

## シールドの外し方

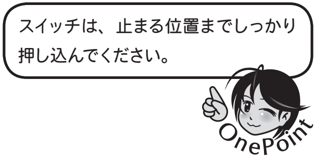
①１５ページの【シールドの開閉】を参考に、シールドを開いて全開にします。

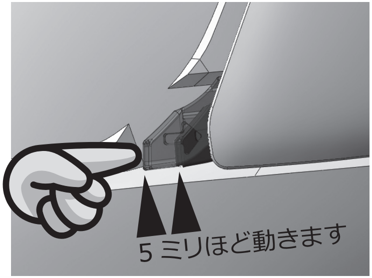
※デミストロックレバーは省略しています。



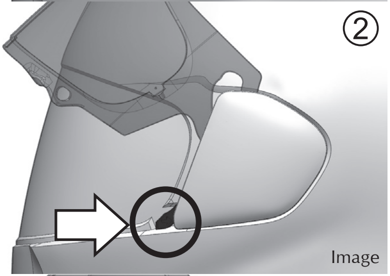
Image

②ホルダーの前方に見える【スイッチ】を、刻印された矢印の方向に押し込みます。



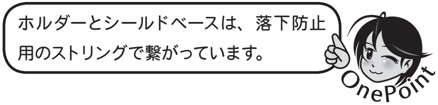



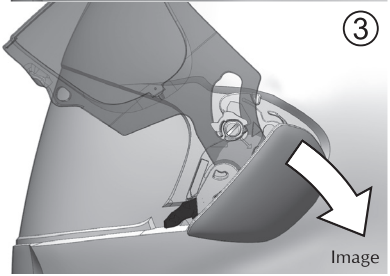
Image



Image

③ホルダーのロックが解除されてホルダーが外れます。

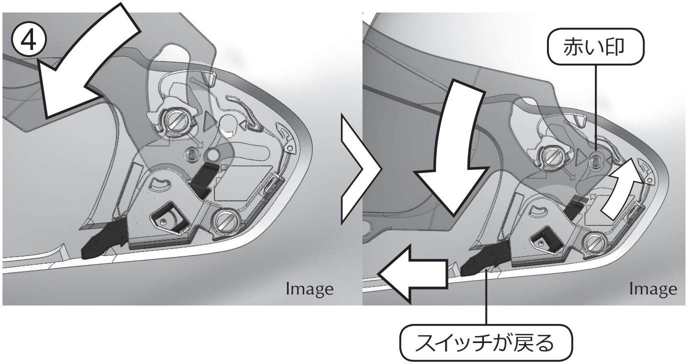


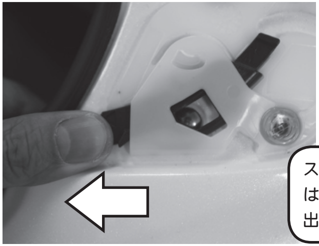



Image

④スイッチが押されたままの状態でシールドを下げると、通常の開閉とは異なる動きをします。
金属製のピンがシールドベースに設けられたレール（～の形をした溝）から離脱して、シールドベースから覗く赤い印の位置に移動します。その際、スイッチは元の位置に戻ります。

※ストリングで繋がったホルダーは省略しています。

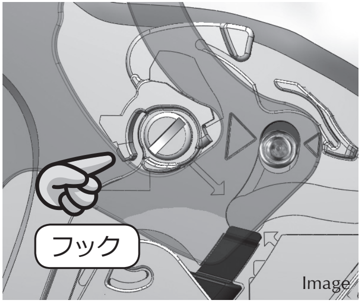


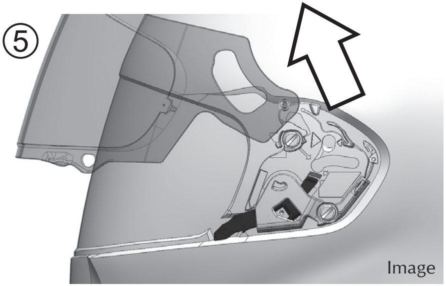



スイッチが戻っていない場合は、先端部を指で押さえて引き出してください。

⑤この時シールドは、シールドベース側に一箇所のフックで留められているだけなので、シールドを後方からめくることでシールドベースから簡単に取り外すことができます。

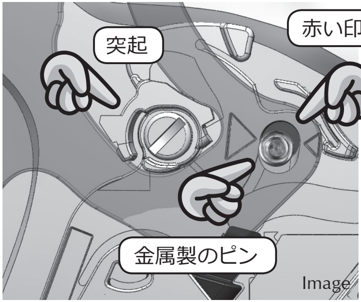
⑥反対側も同様の手順で取り外しを行ってください。

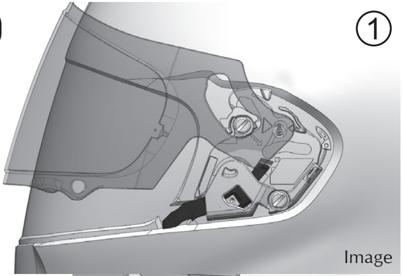


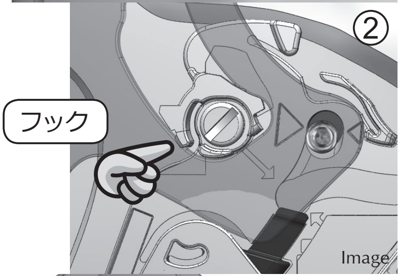
## シールドの付け方

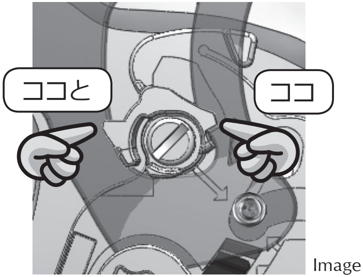
①シールドベースに設けられた突起（可変軸受け）にシールドの摺動穴の下側を合わせます。そして､金属製のピンをシールドベースから覗く赤い印に重ね合わせます。




②フック部分のシールドを上から押して、フックの下に入り込ませせます。

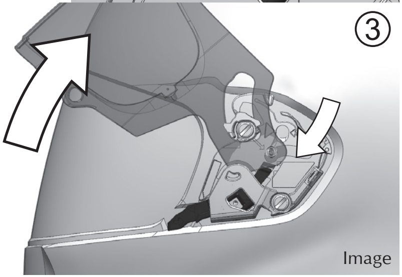


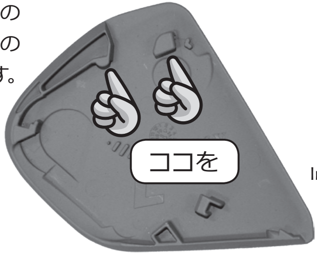

③シールドを上げると、金属製のピンがシールドベースに設けられたレール（~の形をした溝）に入り込みます。

※ストリングで繋がったホルダーは省略しています。

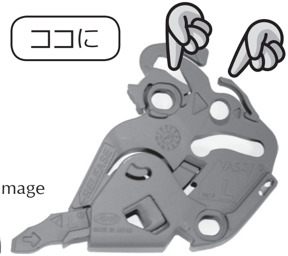
指で示した部分がシールドの上にかぶさっている事を確認してください。

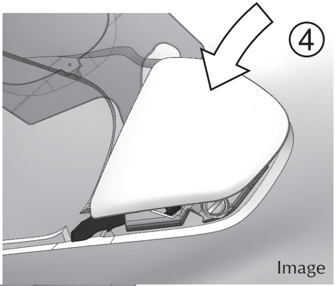


④ホルダーの上部二カ所のフックを、シールドベースの上部の窪みに引っかけます。

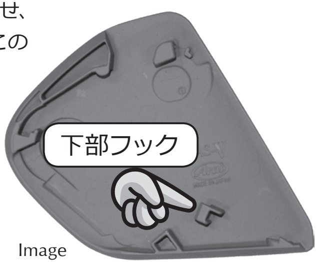



Image

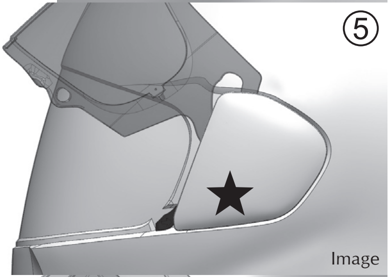


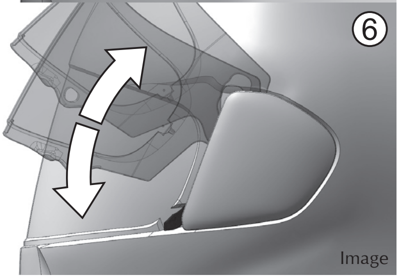

⑤ホルダーの外周とヘルメットの段差の形を合わせ、★印付近を押してホルダーをロックさせます。この部分の裏側には下部フックが設けられています。




Image




⑥反対側も同様の手順で取り付けを行ってください。最後にシールドを数回上下させて作動具合を確認します。




必ず開閉確認を行なってから、
ヘルメットをご使用ください。

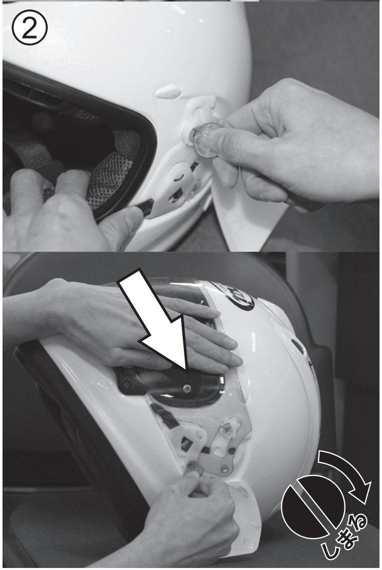
# E シールドベースの着脱

## ①シールドベースの取り外し

シールドベースの着脱はシールドを取り外してから行います。シールドベースを止めているネジは左に回すと緩みます。１０円硬貨を使って全てのネジを緩めてシールドベースを取り外します。

## ②シールドベースの取り付け

シールドベースの刻印で左（L）右（R）を確認して、二本のネジを１０円硬貨を使って止めますが、シールドベースは最初、仮どめにとどめます。
シールドをシールドベースに取り付けた後でシールドが窓ゴム全周に密着するように手のひらでシールドベース側に片方ずつ押し付けながらネジの本締めを行います。



# ストリングの着脱

## ホルダー側のフックの外し方

ストリングのフックの返しを爪の先で押しながら引き抜きます。

Image

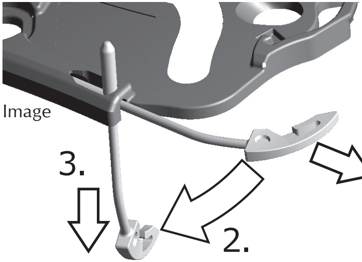
## ホルダー側のフックの付け方

ストリングのフックを、ホルダーのマウントに奥まで差し込みます。

Image

## シールドベース側のアンカーの外し方

ヘルメットから取り外したシールドベースからストリングを全て引き出します。そして、シールドベースの下側に向け９０度折るように曲げるとシールドベースから外れます。

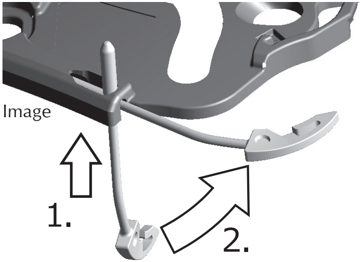



Image

シールドベースを外さないと、ストリングのアンカーは外せません。

## シールドベース側のアンカーの付け方

シールドベース後方の丸穴にストリングのアンカーを裏から差し込んで、シールドベースに設けられた溝に収まるように９０度持ち上げます。

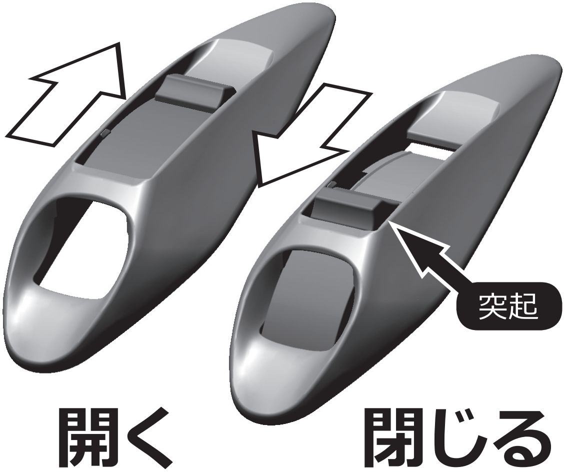



Image

ストリングを付けないでヘルメットをご使用になると、シールドの着脱の際、ホルダーを床や地面に落とすおそれがあります。

## F ICダクト5の操作

ICダクト5のインテークシャッターの突起を後方に（ヘルメットの前後に準じます）スライドさせるとシャッターが開きます。突起を前方にスライドさせるとシャッターが閉じます。



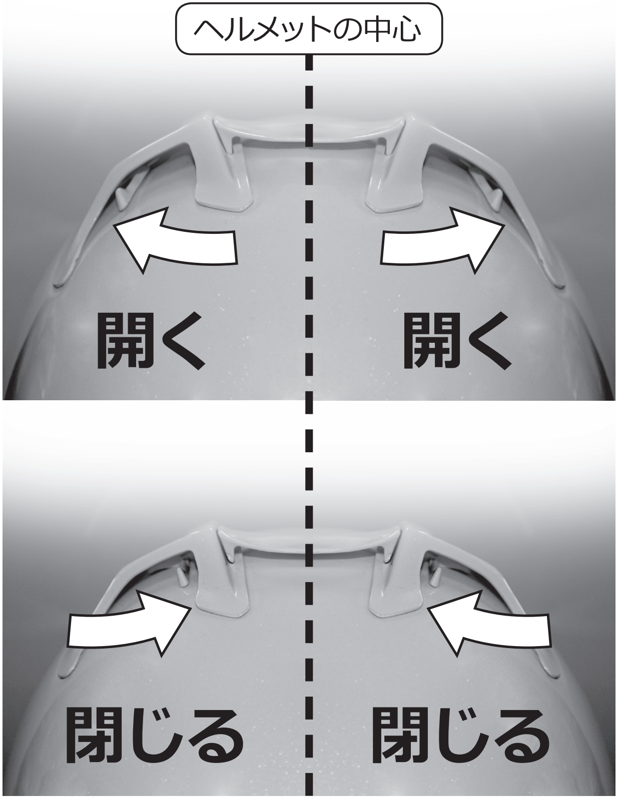

雨天時は、インテーク側のシャッターを閉じてご使用ください。

## G DFIインテークの操作

ディフューザーシステム・タイプ12の、前方吸気口がDFIインテークです。インテーク部のスライドスイッチの突起を後方に（ヘルメットの前後に準じます）スライドさせるとシャッターが開きます。突起を前方にスライドさせるとシャッターが閉じます。

# H ディフューザーの操作

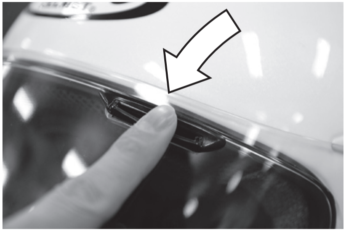
ディフューザーのシャッター操作は、左右の排気口の【レバー】を操作して行います。
レバーをそれぞれ、ヘルメットの中心から遠ざけるとシャッターは開きます。レバーをそれぞれ、ヘルメットの中心に寄せるとシャッターは閉じます。



## I　ブローシャッターの操作

ブローシャッターは、シャッターフィンの中央部に指をかけて引き下げると開きます。閉じる際は、シャッターフィンを止まるまで押し上げます。

雨天時は、シャッターを閉じてご使用ください。



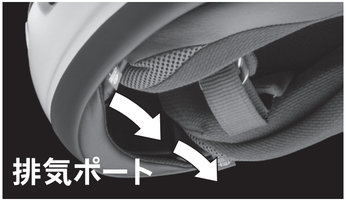
## J　マウスシャッターの操作

①シャッター半開
【フリーフローシステムモード】

シャッターを1段階下げると【フリーフローシステムモード】となり、導入した外気に口元にこもる空気をのせて排気ポートより排出します。

②シャッター全開【デフロストモード】

シャッターを更に下げて全開にすると【デフロストモード】となります。このモードでは、導入した外気をシールド内面に吹き付けて曇りを軽減します。




フリーフローシステムモードは、マウスシャッターから導かれた下降気流に口元にこもる空気をのせて、ヘルメット下部に設けられた排気ポートから排出を行います。

# K ディフレクターの着脱

## ディフレクターの外し方

差し込まれているディフレクターの端をしっかりと掴み、真っ直ぐ引き上げるとディフレクターを外すことができます。

呼気のブロック効果があるディフレクターは、その有無を自由に選択できます。

## ディフレクターの付け方

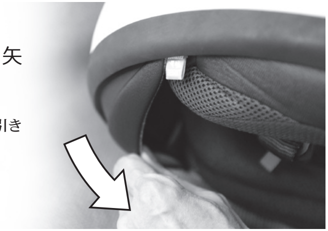
ディフレクターの中心とヘルメットの中心を合わせ、窓ゴムとセンターパッドとの隙間にディフレクターのフックを奥までしっかりと差し込んでください。

# L エアロフラップの操作

## フラップの展開

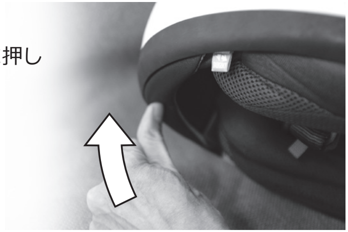
フラップ下部中央を摘み、矢印の方向に引き出します。

※写真は、エアロフラップを最大限引き出した状態です。



## フラップの格納

フラップを矢印の方向に押し上げます。

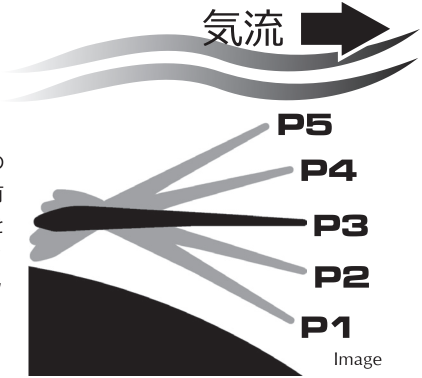


**フラップを止まる位置以上に無理に引き出すと、フラップが脱落するおそれがあります。尚、ヘルメットの着脱時や持ち運ぶ際には、エアロフラップを内部に格納してください。**

# M エアロフィンの操作

## エアロフィンの機能とは！？

ディフューザー後部に取り付けられたエアロフィンによってヘルメット上を流れる気流をコントロールし、ヘルメット後方に生じる乱気流を抑えて高速走行時のヘルメットの挙動を安定させます。エアロフィンは五段階に角度を変えられるので、所有されるオートバイやご自身の乗車姿勢に合わせたセッティングを行うことが可能です。




## エアロフィンのセッティング方法

エアロフィンのセッティングは、ヘルメット上方の気流と平行にするのが基本ですので、右図の場合は【Ｐ３】の位置となります。しかし、オートバイの種類やカウルの有無、スクリーン形状によって気流は変化するので、オートバイに合ったセッティングを行う必要があります。エアロフィンの位置【Ｐ１】でヘルメットをかぶり、エアロフィンを動かして試走し、調節を行ってください。セッティングが良好な場合は、ヘルメットの高速走行時のブレが収束し、安定した状態をキープできます。

**走行中に調整を行うにはハンドルから手を離さなければならず、運転に支障をきたすおそれがあります。調節作業は安全な場所に停車してから行ってください。**

**エアロフィンはサーキット等の高い速度領域で、そのポテンシャルを最大限発揮します。よって、法定速度が定められた一般道では、エアロフィンによる効果が体感できない場合があります。また、気流を遮るようなオーバーセッティングだと乱気流が発生し、風切音やヘルメットの挙動を乱す原因となりますので、ご注意ください。**

## エアロフィンの操作方法

①エアロフィン後端の中央部をヘルメット前方に向けて2mmほど押すと、ギアの噛合が離れてフリーになり、エアロフィンを自由に上下できるようになります。

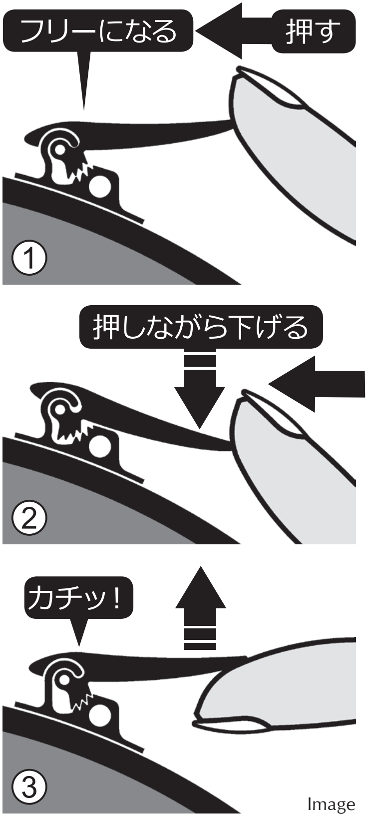
エアロフィンを下ろす際は、エアロフィンベースのロック機構を解除する必要があります。

②エアロフィンを前方に押したまま、最下位置まで下ろします。

③エアロフィン後端の中央部を持ち上げると、カチッカチッ!と4段階に可動します。エアロフィンを上げすぎた場合は、①の【ロック解除動作】を必ず行ってからエアロフィンを下ろしてください。

**ロックの解除を行わずにエアロフィンを無理に下ろしたり、可動範囲以上にエアロフィンを動かすと、エアロフィン及びエアロフィンベースが破損しますので、ご注意ください。**

**ヘルメットを持ち歩く際は、エアロフィンを持たないでください。エアロフィンが外れてヘルメットが落下するおそれがあります。尚、ヘルメットに強い衝撃が加わると、路面への引っ掛かりを防止するためにエアロフィンはヘルメットから脱落します。**




Image

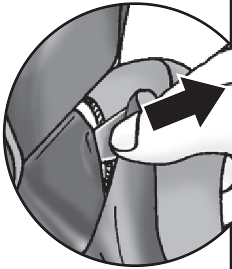
# N システムパッドの着脱

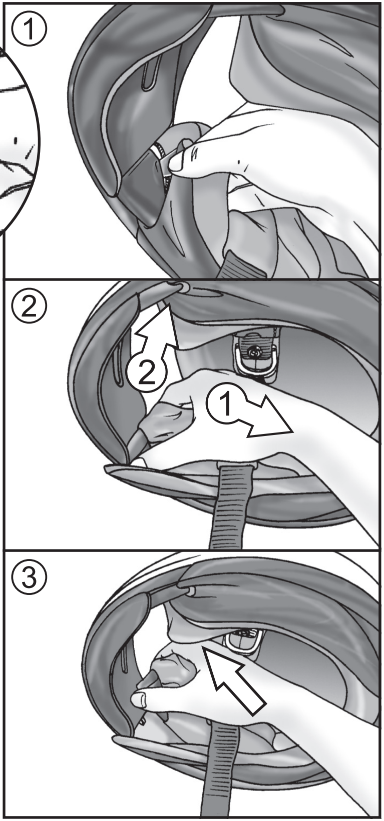
## システムパッドの取り外し

①システムパッド前方のポケットに差し込まれている【タブ】を抜き取ります。タブは付け根を摘まみ、矢印の方向に引き抜きます。

②次に、システムパッドの前方を掴んでヘルメット後方に向かって押し付けます。すると、システムパッドの前方のロックが解除されるので、システムパッド前方を持ち上げます。

③システムパッドの前方が外れたら、システムパッド全体を掴んで斜め前方に抜き取ります。






システムパッド内の緩衝体は、強い力を加えると折れてしまいますので取り扱いにはご注意ください。

## システムパッドの取り付け

■予め、あご紐をパッド中央の穴に通しておきます。

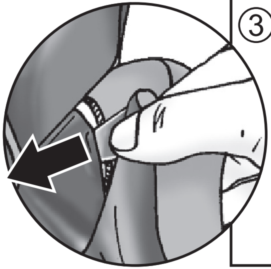
①システムパッドの後方から先にヘルメットにはめ込みます。

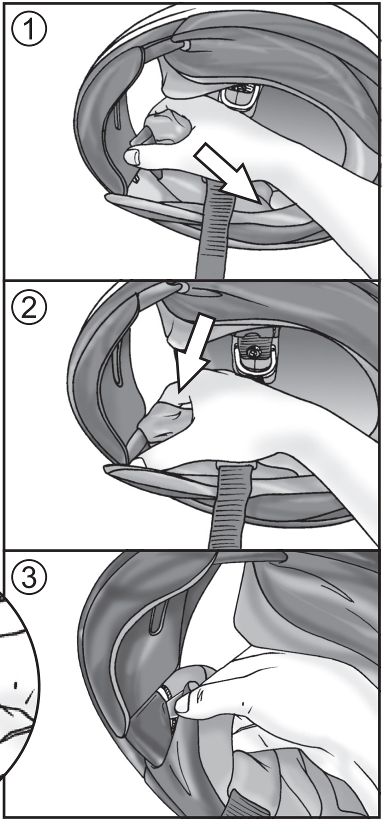
②システムパッド前方を、ロックされるまで上から押し付けます。取り付け後、システムパッド前方を上下左右に動かしてもシステムパッドにガタ付きが生じなければ問題ありません。

③次に、あご紐を引っ張って弛みを取り除き、システムネックのタブを、システムパッド前方に設けられたポケットに差し込んでください。

**システムパッドを装着せずにヘルメットをかぶったり、パッド中央の穴にあご紐を通さないでシステムパッドを取り付けると、あご紐の機能が損なわれて危険です。あご紐をパッド中央の穴に正しく通してシステムパッドを正しく取り付けてヘルメットをご使用ください。**

**システムネックのタブの取り付けが不充分だと、ヘルメットの着脱時や走行中にタブが外れてしまうおそれがあります。**



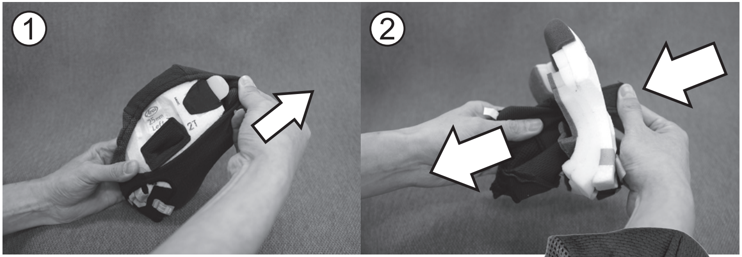


# O パッドカバーの着脱

## パッドカバーの取り外し

①パッド後部の爪の部分よりパッドカバーを外します。

②次に、システムパッド裏面のストッパーを縦にして、パッド本体の中央の穴に通して抜き取ります。



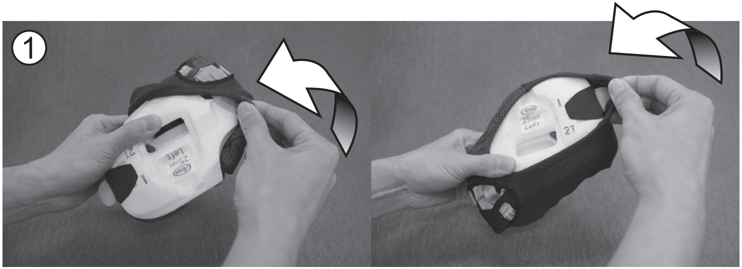
パッド本体は熱や変形に弱い素材で構成されているので、やさしく手洗いしてください。

## パッドカバーの取り付け準備

■パッド本体とパッドカバーの左右を確認します。パッド本体とカバーには、左（Ｌｅｆｔ）右（Ｒｉｇｈｔ）の表示ラベルが付いています。

## パッドカバーの取り付け

①パッド本体に前方から先にカバーをかぶせます。途中パッドを持ち替えてカバーの形を整え、後方の爪までかぶせます。

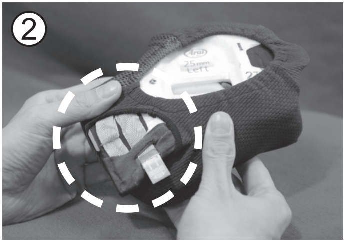


②カバー前方の穴からパッド本体のツメと角が出るようにカバー位置の調節を行います。

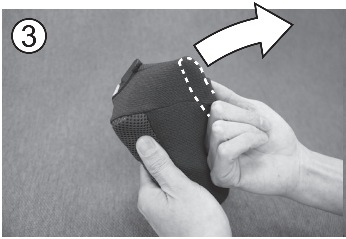
③カバーをかぶせた直後はウレタンの角がカバーに押されて丸まっています。このままではかぶり心地に影響するので、ウレタンの角を出す作業が必要となります。ウレタンパッドの角を出すには、パッドの頬にあたる面の中央の孔に指を入れ、パッドカバーを指先で引っぱり上げます。すると、パッドとウレタンフォームとの間に空間ができ、ウレタンの角が回復します。

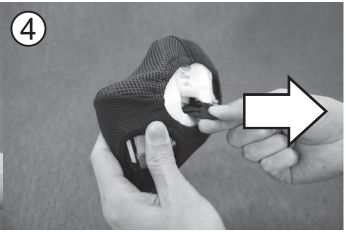
④パッドの中央の孔にストッパーを縦向きにして通し、パッド裏面の四角い窪みにキチンと収めます。

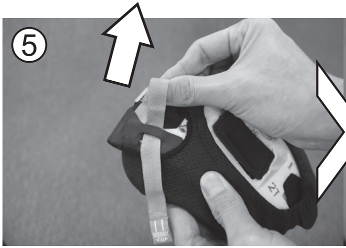
⑤エマージェンシータブが引き出されている場合は、タブを止まる位置まで引っぱり上げます。そして、引っぱってできたループは、パッドカバーの穴に収めます。




このカバー位置が正しくないと、かぶり心地に影響しますので、入念に位置調節を行ってください。



**危険**

**エマージェンシータブが周辺物に引っ掛かるおそれがあります。エマージェンシータブを引き出したままで使用するのはお止めください。**

# 調節パッドによるサイズの調節

■システムパッドには、容易に剥がして厚み変更ができる【調節パッド】が予め取り付けられています。この調節パッドを取り除くことでパッドの厚みを5mmほど薄くでき、フィット感を緩くすることができます。

## 調節パッドの取り除き方

システムパッドからカバーを外し、一番上に貼られている調節パッドを剥がします。このパッドは本体パッドにストライプ状に部分接着されているので容易に剥がすことができます。調節パッドを剥がし終えたら、システムパッド本体にパッドカバーをかぶせてください。尚、外した調節パッドには接着力が残っていますので、周辺の物に誤ってくっ付けないようご注意ください。

調節パッドを剥がす際、本体側のパッドをちぎってしまわないようにご注意ください。尚、剥がしたパッドは再利用できません。お住まいの地域の、軟質ポリウレタンフォーム製品の分別ルールにしたがって廃棄してください。

# P ヘルメットサイズの調節

■標準設定の内装ではヘルメットがきつい方やゆるい方のため、厚さの異なる内装に替える事で、頭周りと頬部のサイズ調節が行えます。システム内装とシステムパッドの厚さの異なるオプションが用意されていますが、交換される場合には、お持ちのヘルメットの標準設定をご参照のうえ、お選びください。

## システム内装による頭回りの調節

【５４と５５-５６】そして【５７-５８と５９-６０未満】には其々共通の内装枠が使用されています。この事により表のような頭周りの微調整が行えます。内装枠サイズはローマ数字（Ⅰ～Ⅴ）で表示されています。この枠の数字が異なると取り付けることができませんのでご注意ください。

| ヘルメットサイズ（cm） | 内装枠サイズ・パッド厚（mm） | | |
|---|---|---|---|
| 54 | Ⅱ−7 | Ⅱ−10 | |
| 55-56 | | Ⅱ−7 | Ⅱ−10 |
| 57-58 | Ⅲ−7 | Ⅲ−10 | |
| 59-60未満 | | Ⅲ−7 | Ⅲ−10 |
| 61-62未満 | | Ⅳ−7 | |
| フィット感 | ゆるくなる | 標準 | きつくなる |

## システムパッドによる頬部の調節

システムパッドは内部のウレタンパッドの厚みが異なる以外は全て共通です。基本的に全サイズのヘルメットに、どの厚さのシステムパッドも取り付けることができます。しかし、標準設定よりも極端に厚くしたり薄くしたりすると、ヘルメットのかぶり心地を大きく損なう場合があります。

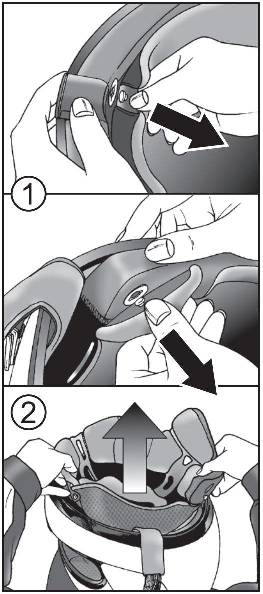
| ヘルメットサイズ（cm） | システムパッドの厚み（mm） | | |
|---|---|---|---|
| 54 | 20 | 25 | 30 |
| 55-56・57-58 | 15 | 20 | 25 |
| 59-60・61-62未満 | 12 | 15 | 20 |
| フィット感 | ゆるくなる | 標準 | きつくなる |

# Q システム内装の着脱

## 内装の外し方

①システム内装は四つのホックで衝撃吸収ライナの内側に取り付けられています。
それぞれのホックのなるべく近くを持ち、ヘルメットの中心に向けて引っぱってホックを取り外してください。

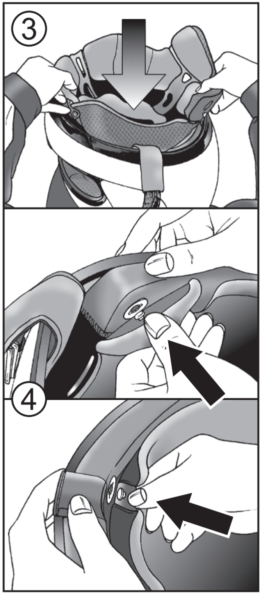
②システム内装をヘルメットから取り出します。




## 内装の付け方

③内装の前後の向きに注意してヘルメット内に入れます。

④システム内装のそれぞれのホック位置を合わせて押し込みます。取り付け完了後に内装の歪みを整えてください。



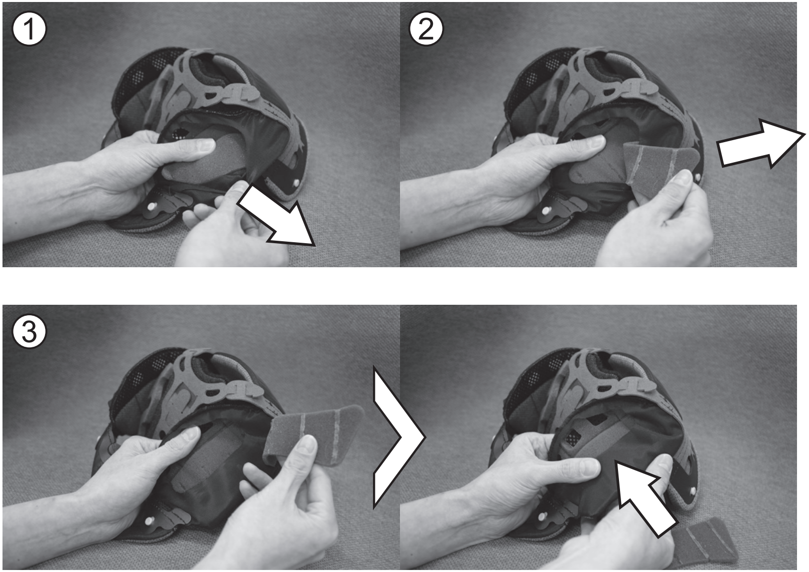

**ホック及び内装枠の破損防止のため、全てのホックを外してから内装を取り出してください。また、乗車用手袋をヘルメット内に入れると、手首部分の面ファスナーが内装に貼り付いたり、手袋のプロテクターやエアーダクト類がヘルメットの内部を傷める場合がありますのでご注意ください。**

■システム内装のサイドパッド部分には、容易に剥がすことができる【調節パッド】が貼り付けられています。この調節パッドを取り除くことで、システム内装のサイド部を片側で4mmほど薄くできます。

①システム内装のサイドパッド（側頭部にあたる部分）の外側のポケットをめくります。

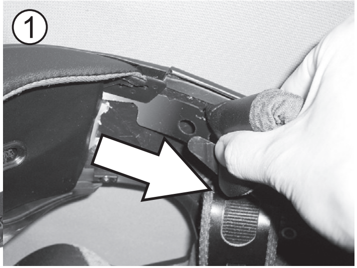
②調節パッドは、パッドの本体側に粘着テープで部分止めされているので丁寧に剥がしてください。

③調節パッドを取り除き、ポケットを閉じてシステム内装の形を整えます。尚、外した調節パッドには接着力が残っていますので、周辺の物に誤ってくっ付けないようご注意ください。




調節パッドを剥がす際、本体側のパッドをちぎってしまわないようにご注意ください。尚、剥がしたパッドは再利用できません。お住まいの地域の、軟質ポリウレタンフォーム製品の分別ルールにしたがって廃棄してください。

# R システムネックの着脱




## システムネックの取り外し

■予め、左右のシステムパッドを外しておきます。

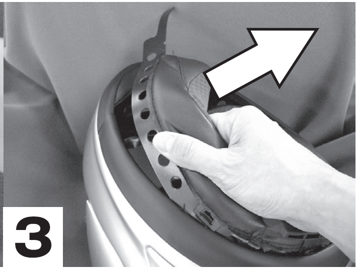
①センターパッドの裏に差し込まれているシステムネックの【枠先端】を、左右とも抜き取ります。

②システムネックの中央をしっかりと持ち、横に3～4ｃｍほどひねります。すると、システムネックが移動してロックが解除されるので、システムネックを安全に取り外すことが可能となります。

ネックの中央をしっかりと持つ。

横にひねると、ネックがスライドします。

※ひねる方向は、左右どちらでも可能。

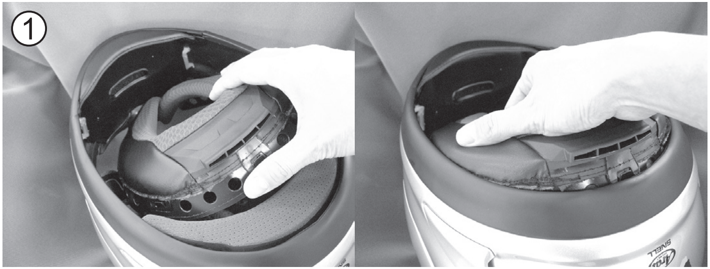



ネックを枠ごと持って取り外します。

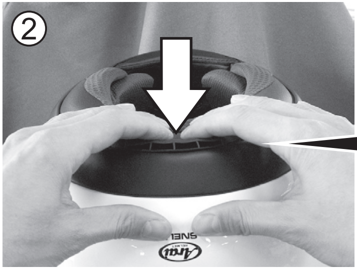
**システムネックを外す際は、縫製のほつれ防止のためシステムネックを枠ごとしっかり持ってください。また、ヘルメットを持ち歩く際にシステムネックを持つと、システムネックが外れてヘルメットが落下するおそれがあります。**

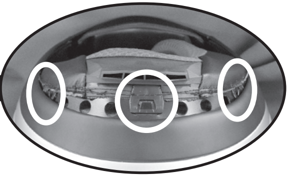
## システムネックの取り付け

①システムネック両端をすぼめ、ヘルメット内に一旦入れます。そして、ヘルメット側の隙間にシステムネックの枠を均等に差し込み、システムネックの左右のズレを修正しておきます。




②次にシステムネック後部のフックの取り付けを行います。先に左右のフックを上から押し込んで取り付け、中央は写真②のように両手で摘むようにして取り付けます。

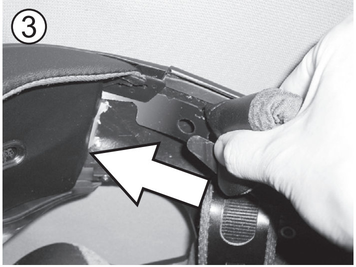


フックの位置

取り付け後にシステムネックを少し引っ張ってもフックが外れないことを確認してください。

③システムネックの【枠先端】をセンターパッドの裏に差し込み、システムパッドを取り付ければ作業終了です。




枠先端が正しく差し込まれていないと、ヘルメット内に突出して顔を傷付けるおそれがあります。

システムネックの大きさはヘルメットサイズによって異なります。巻末のパーツリストをご参照ください。

# S ストラップカバーの着脱

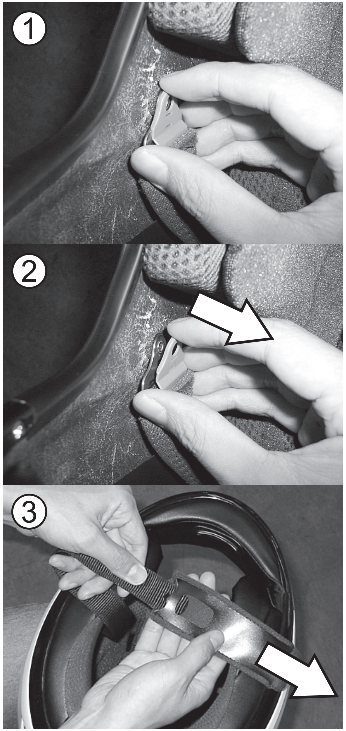
## ストラップカバーの取り外し

①あご紐基部の金属製アンカーにかぶさっている、ストラップカバーの取り付け具【カバーハンガー】をしっかり持ちます。

②カバーハンガーを上の方からめくるようにして、金属製アンカーから取り外します。

③ストラップカバー全体をあご紐から抜き取ります。反対側も同じ手順でストラップカバーを外してください。

Dリング側は少しきついので、外す際はご注意ください。




## ストラップカバーの取り付け準備

まず、ストラップカバーの左右表裏の確認を行います。

ストラップカバーは合成皮革が縫い付けられている方を【裏】とします。

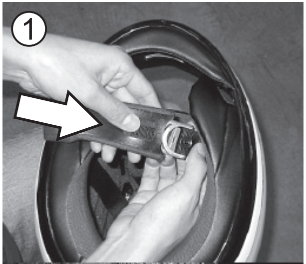
左側：合皮の部分が短い

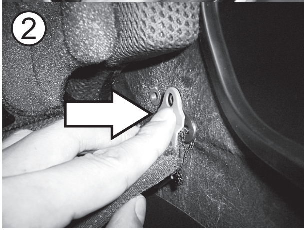
右側：合皮の部分が長い

## 左側ストラップカバーの取り付け

①カバーの裏（合皮側）を手前に向け、Dリング側のあご紐をカバーに差し込みます。

②カバーハンガーを、あご紐の金属製アンカーに重ね合わせて押し付けます。



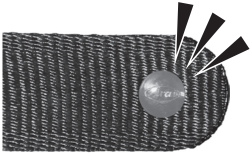




カバーの途中に開いている穴に指を入れてDリングを送り出すと、楽に通すことができます。

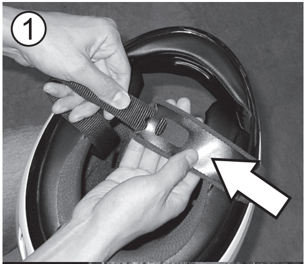
## 右側ストラップカバーの取り付け

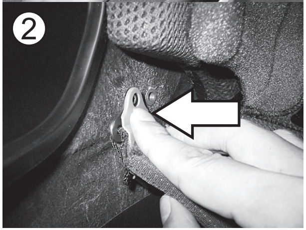
①カバーの裏（合皮側）を手前に向け、長い方のあご紐をカバーに差し込みます。

②カバーハンガーを、あご紐の金属製アンカーに重ね合わせて押し付けます。



あご紐は、刻印の入ったスナップの頭を上に向けてカバーに通します。



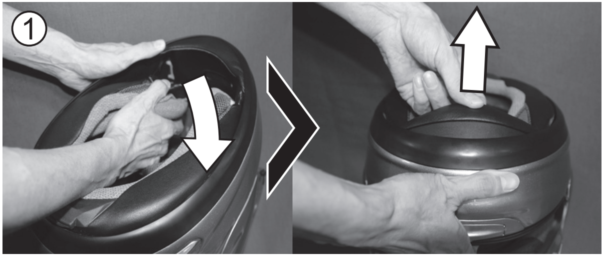




**ストラップカバー未装着の状態でヘルメットを使用しないでください。また、ストラップカバーの取り付けが不十分だと、ヘルメットをかぶる際にストラップカバーが外れるおそれがあります。**

# T　ESチンカバーについて

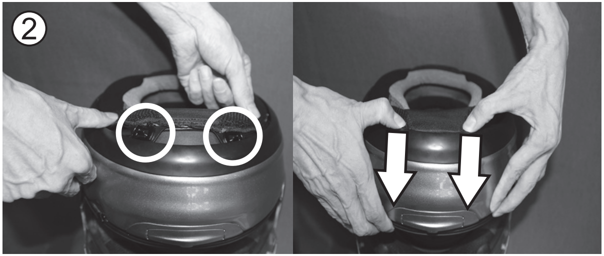
## チンカバーの付け方

①システムパッドを後方にスライドさせて、パッド前方のフックのみを外して、システムネックとシステムパッドをフリーにします。そして、エアロフラップを止まる位置まで引き出します。こうすると、チンカバー前方二カ所のフックが入れやすくなります。



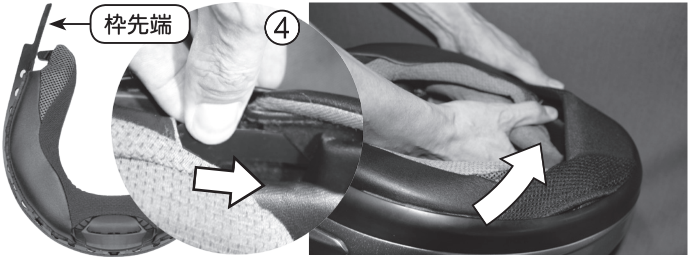

②縁ゴムとエアロフラップの間に、チンカバー前方のフックを差し込みます。チンカバーの左右も一旦システムパッドとヘルメットの隙間に収めます。ここで、チンカバーの縫い目の段差を前エッジへ入り込ませ、馴染ませてください。そして、前方のフックのあった場所を、上からカチッと感触がするまで押し込みます。

※縁ゴムを少しめくりながら前方フックを差し込むと作業がしやすいです。



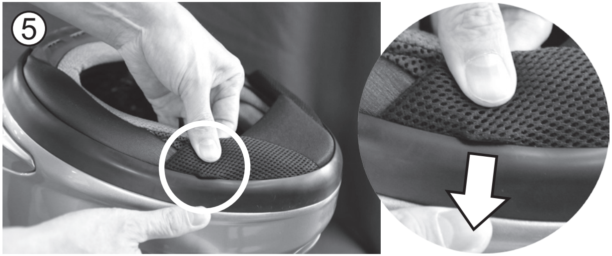

③チンカバーの両端部に縫い付けられた、チンカバーの【タブ】をシステムネックの枠の下に引っかけます。

④システムネックの【枠先端】をセンターパッド裏に差し込んで、システムパッドの前方を、ロックされるまで押し付けます。取り付け後、システムパッド前方を上下左右に動かしてもシステムパッドにガタ付きが生じなければ問題ありません。




**注意** **枠先端が正しく差し込まれていないと、ヘルメット内に突出して顔を傷付けるおそれがあります。**

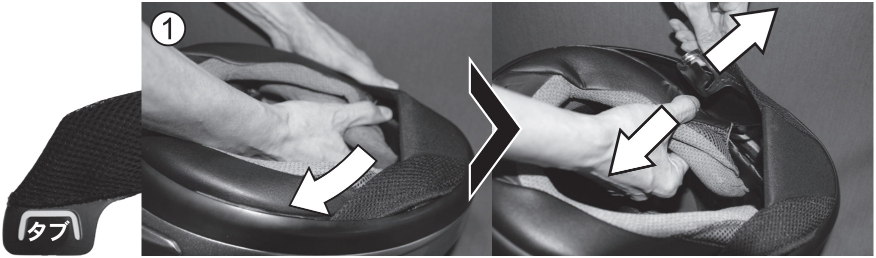
⑤チンカバーの両サイドのメッシュ部内部に備わったフックを縁ゴムに乗せるようにして引っ掛けておくことで、チンカバーの変形（ヘルメット内への潜り込み）を防止できます。



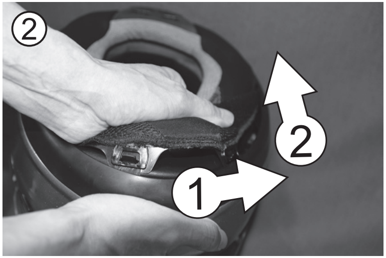

チンカバー下のエアロフラップを引き出すと、エアロフラップ自体がチンカバーの支えとなり、内部空間が確保されて口元にゆとりが生まれます。

# チンカバーの外し方

①左右のシステムパッドの前方を外します。次に、システムネックの枠の部分に引っかけられている、チンカバーの【タブ】を左右とも外してください。




②チンカバーの中央をしっかり掴んで、縁に沿って反時計回りに２ｃｍほどスライドさせると取り付けフックが外れてチンカバーを引き抜くことができます。




③チンカバーを外したら、システムネックの【枠先端】をセンターパッド裏に差し込みます。

**注意**

**枠先端が正しく差し込まれていないと、ヘルメット内に突出して顔を傷付けるおそれがあります。**

④最後に、左右のシステムパッドの前方を、ロックされるまで押し付けます。取り付け後、システムパッド前方を上下左右に動かしてもシステムパッドにガタ付きが生じなければ問題ありません。

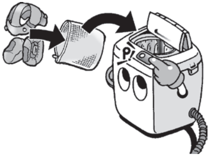
注意

**雨などによってチンカバーが湿ったままの状態でヘルメットを使用すると、ヘルメット内部の湿度上昇によってシールドの曇りが助長されるおそれがあります。雨天走行時にはチンカバーを取り外すことをお勧めいたします。**

## チンカバーのお手入れ（柔軟剤を含まない中性タイプの洗濯用洗剤を推奨）

チンカバーをヘルメットから取り外して手洗いを行いますが、チンカバーに取り付けられた枠を折り曲げたり変形させせないよう、やさしく洗ってください。そして、洗い終えたら水でよく濯いでペーパータオルなどで水分を取り除き、風通しの良い日陰で自然乾燥させてください。

**チンカバーを洗濯機で洗う際は、必ず【洗濯ネット】に入れ、ソフト・弱・手洗いなどの素材に負担をかけないモード選択を行なってください。また、衣類乾燥機や洗濯乾燥機による内装の乾燥につきましては、その乾燥温度が５０℃以上に達する場合はご使用頂けませんのでご注意ください。**



※乾燥温度については、衣類乾燥機や洗濯乾燥機に付属している取扱説明書をご確認ください。

# U ヘルメットのお手入れ

## パーツ類のお手入れ（中性タイプの台所用洗剤を推奨）

ホルダーやベンチレーションダクトなどのパーツ類は、中性洗剤を適量の水で薄め柔らかい布にふくませてパーツ表面の汚れを拭き取ってください。

**注意**

**お手入れにアルコールを含むクリーナー類やシンナー系の溶剤、ガソリンなどを使用すると、塗装面や素材が侵されますので絶対に使用しないでください。**

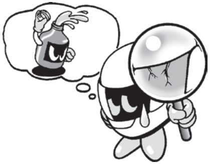
## シールドのお手入れ（中性タイプの台所用洗剤を推奨）

シールド表面にオイルやワックス・ガソリンなどが付着すると、たとえ目に見える変化がなくとも素材が侵されてしまいますので、シールドの定期的なクリーニングをお勧めします。クリーニングは薄めた中性洗剤でシールド表面の油分などを洗い流し、流水で十分に濯いでから柔らかい布で水分を拭き取ります。

**危険**

**シールド素材は耐衝撃性に優れたものですが、アルコールを含むクリーナーやシンナー系溶剤、ガソリンなどが付着した場合や、車窓用の撥水剤などを使用した場合、素材が侵されシールドにヒビ割れが発生し、万一の衝撃時に破損するおそれがあります。**

**シールドに虫などが付着して硬くなってしまっている場合は、シールドを真水に浸けて柔らかくしてから、薄めた中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で拭き取ってください。尚、中性洗剤を薄めた液中にシールドを長時間浸け込むのは絶対にお止めください。**

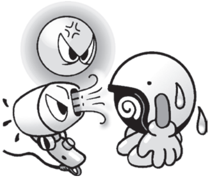


## ヘルメット本体の洗い方（中性タイプの洗濯用洗剤を推奨）

ヘルメットを丸洗いする時はヘルメットからシールドや着脱式内装を取り外してヘルメット全体を中性洗剤を少量溶かした水に浸し、ヘルメット表面、あご紐、内装のメッシュを洗い、その後真水で十分に濯いでペーパータオルなどで水分を取り除き、日陰の風通しの良い場所にヘルメットを逆さまに吊して自然乾燥させてください。

**注意**

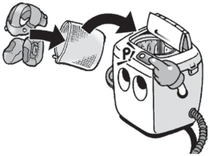
**ヘルメットを乾燥させる際、５０℃以上加熱したりヘルメットを長時間日光にさらし続けると、ヘルメット内の衝撃吸収ライナが熱や太陽光に含まれる紫外線により変形、変質し、衝撃吸収性が失われてしまいますのでご注意ください。**



## 着脱式内装のお手入れ（中性タイプの洗濯用洗剤を推奨）

ＥＰフルシステム内装（システム内装・システムパッドのカバー・ストラップカバー・システムネック）をヘルメットから取り外して手洗いを行いますが、システム内装やシステムネックは枠を折り曲げたり変形させないよう、やさしく洗ってください。そして、洗い終えたら水でよく濯いでペーパータオルなどで水分を取り除き、風通しの良い日陰で自然乾燥させてください。

**内装を洗濯機で洗う際は、必ず【洗濯ネット】に入れ、ソフト・弱・手洗いなどの素材に負担をかけないモード選択を行なってください。また、衣類乾燥機や洗濯乾燥機による内装の乾燥につきましては、その乾燥温度が５０℃以上に達する場合はご使用頂けませんのでご注意ください。**



※乾燥温度については、衣類乾燥機や洗濯乾燥機に付属している取扱説明書をご確認ください。

## ｐＨコントロール：抗菌消臭高機能生地について

ｐＨコントロール：抗菌消臭高機能生地を使用した内装は、路上に直接ヘルメットを置いたり、内装生地よりも硬い物で強く擦ったりすると、ほつれや毛羽立ちが生じる場合がありますのでご注意ください。尚、内装にほつれや毛羽立ちが生じた際は、新しい内装をお買い求めください。

# V オプションパーツリスト

| パーツ名 | | 部品番号 | メーカー希望小売価格 |
|---|---|---|---|
| VAS-V MVシールド | クリアー | 1057 | ¥4,500 |
| | セミスモーク | 1056 | |
| | スモーク | 1058 | |
| VAS-V ポスト付シールド | クリアー | 1054 | ¥4,400 |
| | スモーク | 1055 | |
| VAS-V MV ピンロックシート | クリアー | 1062 | ¥2,500 |
| VAS-V ティアオフシールド | クリアー（5枚入り） | 1065 | ¥900 |
| | スモーク（3枚入り） | 1067 | |
| VAS-Vホルダー | 白 | 5428 | ¥1,200 |
| | グラスホワイト | 5429 | ¥1,500 |
| | グラスブラック | 5430 | |
| | アルミナシルバー | 5431 | |
| | フラットブラック | 5432 | |
| VAS-Vシールドベース | | 1066 | ¥450 |
| スーパーアドシスネジセット | | 2511 | ¥120 |
| IPディフレクター | | 2391 | ¥800 |
| ESチンカバー | | 2375 | ¥1,800 |

| パーツ名 | | 部品番号 | メーカー希望小売価格 |
|---|---|---|---|
| ICダクト5 | クリアー | 4114 | ¥800 |
| | 白 | 4115 | |
| | グラスホワイト | 4116 | |
| | グラスブラック | 4117 | |
| | アルミナシルバー | 4118 | |
| | フラットブラック | 4119 | |
| | スモーク | 4120 | |
| | フラットスモーク | 4121 | |

※記載されているメーカー希望小売価格は、すべて税抜き価格です。お買上げの際には別途、消費税が付加されます。

| パーツ名 | | 部品番号 | メーカー希望小売価格 |
|---|---|---|---|
| RX−7X EP システムパッド | 12mm | 5697 | ¥3,400 |
| | 15mm | 5698 | |
| | 20mm | 5699 | |
| | 25mm | 5700 | |
| RX−7X EP システム内装 | Ⅱ−10mm | 5682 | ¥3,700 |
| | Ⅱ−7mm | 5683 | |
| | Ⅲ−10mm | 5686 | |
| | Ⅲ−7mm | 5687 | |
| | Ⅳ−7mm | 5691 | |
| RX−7X EPシステムネック 対応サイズ 54・55-56・57-58・59-60cm | | 5704 | ¥3,000 |
| RX−7X EPシステムネック・大 対応サイズ 61-62cm | | 5705 | |
| RX−7X EPストラップカバー | | 3616 | ¥1,200 |

上記のシステムパッド・システム内装・システムネック・ストラップカバーが、内装生地のコットン化の対象となります。

※記載されているメーカー希望小売価格は、すべて税抜き価格です。お買上げの際には別途、消費税が付加されます。

## 内装生地のコットン化について

ヘルメットの内装生地には化学繊維が使われています。しかし、天然素材以外は使用できないお客様のためにコットン（綿１００%）内装の製作ご相談も、アライヘルメット品質管理課で受け付けています。

アライヘルメット品質管理課 ☎０４８-６４５-３６６１

受付時間：午前9時〜午後6時（土日、祝日を除く）

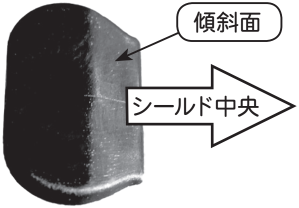
OPTION

# VAS−V MVピンロックシートについて

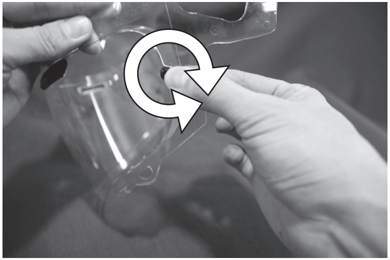
※ピンロックシートは付属していませんので、別途お買い求めください。

## お買い求めになられた際は、先ずご確認ください。

ピンロックシートを取り付けるための左右のピンの傾斜面が、お互いにシールドの中央に向いていることをご確認ください。もし中央に向いていない場合は、ピンの内と外を指でつまんで回転させます。ピンが回しにくい場合は、５４ページの「対処法」をご覧ください。




傾斜面をシールド中央へ向ける！



**注意**

**ピンロックシートは、含有する水分量によって伸縮します。雨天使用後や保管状況によっては取り付けピンが緩んでピンロックシートがガタガタと動いてしまう場合があります。ピンの偏心機能は、この伸縮に対応するものですが、ピンロックシートの位置決めピンが伸縮によって緩んだ（離れた）状態のままで使用すると、転倒などで衝撃を受けた際にピンロックシートがシールドより外れるおそれがあります。ご使用前には必ずピンロックシートを確認し、ガタつきの無い状態でご使用ください。**

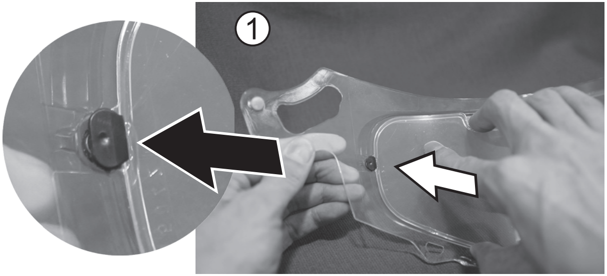
**ピンロックシートの表面は非常にデリケートなので、取り扱いにはご注意ください。**

**シールド内に水が浸入した場合は、ピンロックシートをシールドから一旦外し、充分に自然乾燥させてから取り付けてください。また、雨天時には水の浸入を防ぐため、シールドを可能な限り閉めてご使用ください。ただし、視界の確保に必要な状況では、この限りではありません。**

# ピンロックシートの付け方

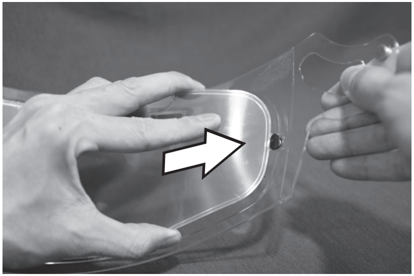
①先ずは、シールドの片方のピンロックシート取り付け用
ピンにピンロックシートの端をはめ込んでください。

※ピンロックシートはシリコンゴムの縁取りをシールド側に向けます。

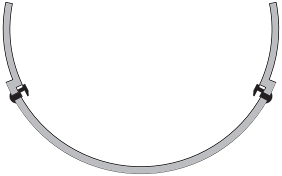



ピンロックシートの反対側をはめ込む際は、シールドを少し広げながら行います。
そして、ピンロックシートの端を下に湾曲させながらシールドにはめ込みます。

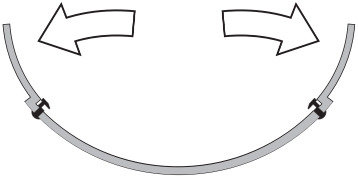
※シールドは極端に広げないでください。



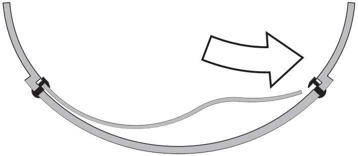
ピンロックシートが確実にピンの下に入り込んでいることをご確認ください。



上から見たシールド

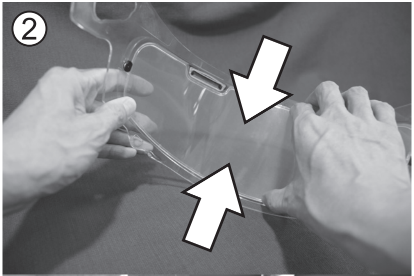


シールドを広げる

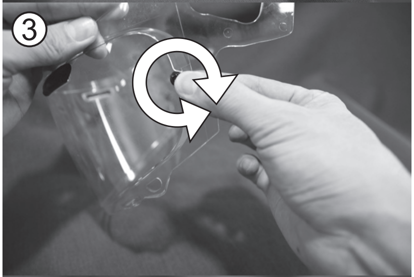


シートをたわませせて差し込む

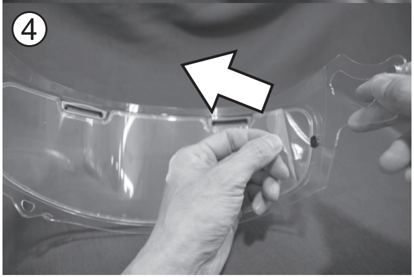
②シールド内面の凹みにピンロックシートがピッタリ収まるように位置を調節します。




③ピンロックシートのがたつきを取り除き、シリコンゴム全周がシールド面に密着するように調節行います。調節方法は、シールド左右に設けられたピンロックシート取り付け用ピンの内と外を指でつまんで回転させて行います。
ピンロックシートの位置決めピンは偏心しているので、回転させることで位置が変化します。※特にがたつき等が見られない場合は、下の説明④に進みます。




④最後に、ピンロックシートの保護シートを剥がしてください。

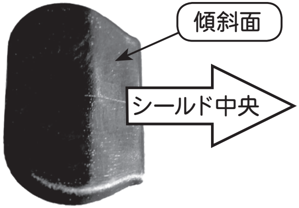



シールドとピンロックシートとの間に隙間が生じると、曇り止め効果が薄れてしまいますので、ご注意ください。

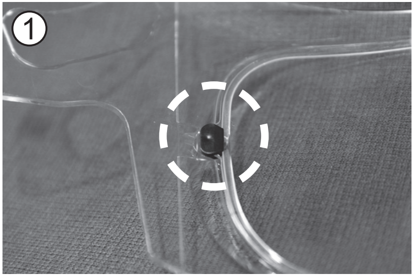
# ピンロックシートの外し方

①ピンロックシートを保持している、シールド左右のピンの傾斜面がシールド中央に向くように指で回します。

ピンロックシートの位置決めピンどうしの間隔が最大となります。

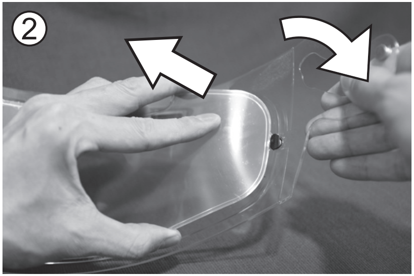



傾斜面をシールド中央へ向ける！




②取り付ける時同様、シールドを少し広げてピンロックシートの端をつかんで取り外します。

ピンロックシートの表面には触れない事。




# ピンロックシートのお手入れ方法

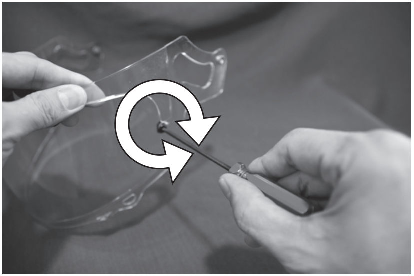
ピンロックシートお手入れは、シールドから一旦取り外してから行なってください。
ピンロックシートは構造上、流水でザブザブ洗うことができません。お手入れの際には食器洗い用中性洗剤を水で5～6倍に薄めた溶液を市販のスプレーボトルに入れ、汚れた部分に薄く噴霧して、汚れが浮き上がったらぬるま湯に浸した柔らかい布で拭き取ってください。その後、十分に自然乾燥させてからシールドに取り付けてください。

※ピンロックシートを乾燥させる際、ドライヤー等で熱を加えると変形するおそれがあります。絶対に使用しないでください。

## ピンが指で回せない時の対処法

シールド外側のピン頭部の十字穴を０番（№.0/＃０）のプラスドライバーで回転させてください。

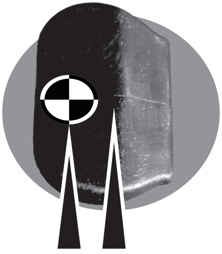
※ドライバー使用時は、ピン側に強く押し付けないでください。また、シールドを傷付けないように十分ご注意ください。

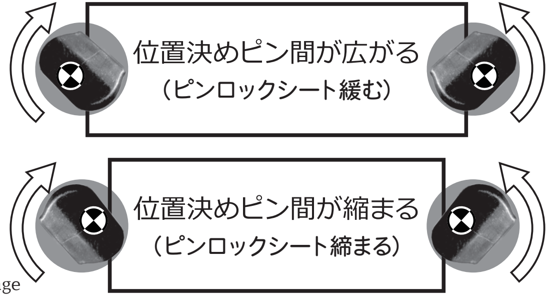


## 用語解説「偏心」とは

偏心とは、回転軸Ａと作用点Ｂが一致していない状態。回転させると作用点が移動する。回転軸中心と作用点が離れれば離れるほど、この移動距離は拡大する。

ここでの作用点は、ピンロックシートの位置決めピンにあたります。



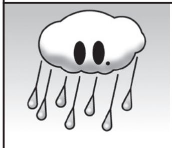

**ピンが緩んでピンロックシートがガタガタと動いたら、左右のピンを回転（偏心）させ、ピンロックシートの縁のシリコンゴムがシールド内面に密着するように再度調節します。尚、調節範囲を超えてしまう場合は使用限界とご理解頂き、新しいピンロックシートにお買い換えください。シールドを長期間使用しない場合は、ピンを緩めておくことでピンロックシートへの負担（応力）を軽減できます。**

## 付録：シールドカラーの選び方

晴天

晴れた日の日中は、陽射しや路面の照返しの眩しさを軽減するスモークシールドがお勧めです。

※スモークシールドは、周辺が明るい状況時に限りご使用ください。



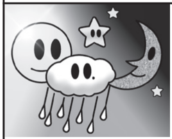
曇り・雨

曇りや雨天の走行には、クリアーシールドがお勧めです。

※アルコール成分を含む撥水剤（自動車窓用）はシールド素材を侵し、破損させるおそれがありますので絶対に塗らないでください。

夕方・夜

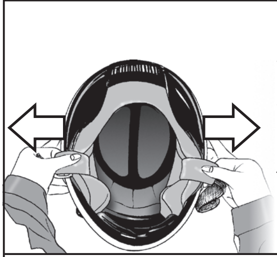
夕方や夜にはクリアーシールドをお勧めします。ツーリングなどで走行が夜間にも及ぶ場合は、日没前に安全な場所で停車して、昼用シールドからクリアーシールドに交換してください。



全天候

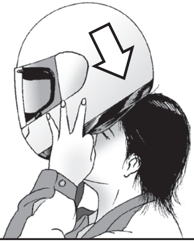
朝→昼→夜、晴れ→曇り→雨と、走行条件が日々刻々と変化する通勤通学、配達業のライダーにはセミスモークシールドがお勧めです。

## 付録：ＦＣＳ採用ヘルメットのかぶり方

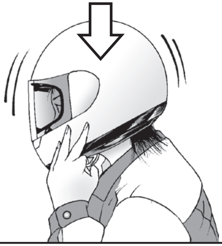


ＦＣＳは頬パッドが下まで回りこんでいるため間口が狭くなっています。あご紐をしっかり持って左右に広げると間口が広がり、ヘルメットがかぶりやすくなります。

※ヘルメットを脱ぐときも同様に、あご紐を左右に広げると脱ぎやすくなります。



ヘルメットは真上からではなく、額から先にかぶります。このようにする事で前髪が目の前に垂れ下がりにくくなり、同時に耳たぶの折れも防げます。



天井パッドが頭に触れるまであご紐を下に引っぱり、ヘルメットの位置を整えます。最後に、あご紐を締めればヘルメットの装着完了です。

**株式会社 アライヘルメット**

〒330 - 0841 埼玉県さいたま市大宮区東町2- 12 ☎048 - 641 - 3825

ヘルメットに関するご質問ご相談は品質管理課まで。

☎048 - 645 - 3661 受付時間 : 9 : 00 ～ 18 : 00（土日、祝日を除く）

## ＳＧ被害者救済制度について

ＳＧマークは、（一財）製品安全協会が定めたＳＧ基準に適合するヘルメットであることを示しています。万が一、このヘルメットの欠陥によって着用者が傷害等身体的な損害を蒙った場合、ＳＧ被害者救済制度による賠償措置の対象となります。但し、プロオートバイレースやサーカスなどの特殊な環境での使用や、あご紐をしめない等の誤った使い方をしていた場合。また、ＳＧ基準が定めるヘルメットの性能を超える衝撃を受けた場合の負傷等は賠償の対象になりません。

（一財）製品安全協会

〒110－0012東京都台東区竜泉二丁目20－2ミサワホームズ三ノ輪 二階　電話番号03 - 5808 - 3300（代）

消費生活用製品ＰＬセンター　電話番号03－5808－3303　受付時間10：00～12：00/ 13：00～16：00（土日、祝日を除く）

福山印刷 株式会社
Printed in Japan

150615-j6